

平成30年度（2018年度）

アドミッション・オフィス（AO）入試
＜専門学科・総合学科特別入試＞
学生募集要項

~~（入学願書在中）~~



群馬大学

＜群馬大学志願者の入学検定料免除について＞

群馬大学では、東日本大震災及び風水害等の災害に罹災した志願者については、特別措置として検定料の全額を免除します。

免除の対象となる災害および被災地域など、免除に関する詳細については、本学ホームページを御覧ください。

目 次

群馬大学入学者選抜日程の概要	2
群馬大学の教育ポリシー	3
理工学部の教育ポリシー	5
アドミッション・オフィス（AO）入試＜専門学科・総合学科特別入試＞	
1 趣旨	19
2 募集人員	19
3 出願資格及び出願要件	19
4 出願手続	19
5 選抜方法	22
6 第2次選抜試験の日時及び試験場	26
7 障害等のある入学志願者との事前相談について	26
8 合格者発表	26
9 第2次選抜試験受験心得	27
10 入学手続等	27
11 一般入試等への出願について	28
12 入学準備	28
13 入学願書等の記入上の注意	30
14 平成30年度入試情報開示について	30
15 入学志願者の個人情報保護について	30
◎試験場までの交通案内	31
コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料支払方法	32
出願書類確認表	33

〔添付書類〕

様式1	群馬大学アドミッション・オフィス（AO）入試 ＜専門学科・総合学科特別入試＞ 入学願書
様式2	検定料振込用紙
様式3	振込金受付証明書・検定料収納証明書貼付台紙
様式4・5	照合票・受験票
様式6	宛名票
様式7	志望理由書
様式8	自己推薦書

※試験の実施に関しての不測の事態（災害・事故等）が生じた場合は、本学ホームページ（入試案内）に掲載しますので、御確認ください。なお、追試験は、原則実施しません。

※試験前日又は試験当日に、最寄りの駅・バス停から試験場周辺にかけて勧誘や物品の販売が行われていることがありますが、これらの行為は群馬大学とは何ら関係がありません。不当な料金を請求される等のトラブルに巻き込まれないよう十分注意してください。そのような事故が生じて、群馬大学は一切責任を負いません。

群馬大学ホームページ：[<http://www.gunma-u.ac.jp/>]

LINEとTwitterから入試情報をリアルタイムでお届けします。

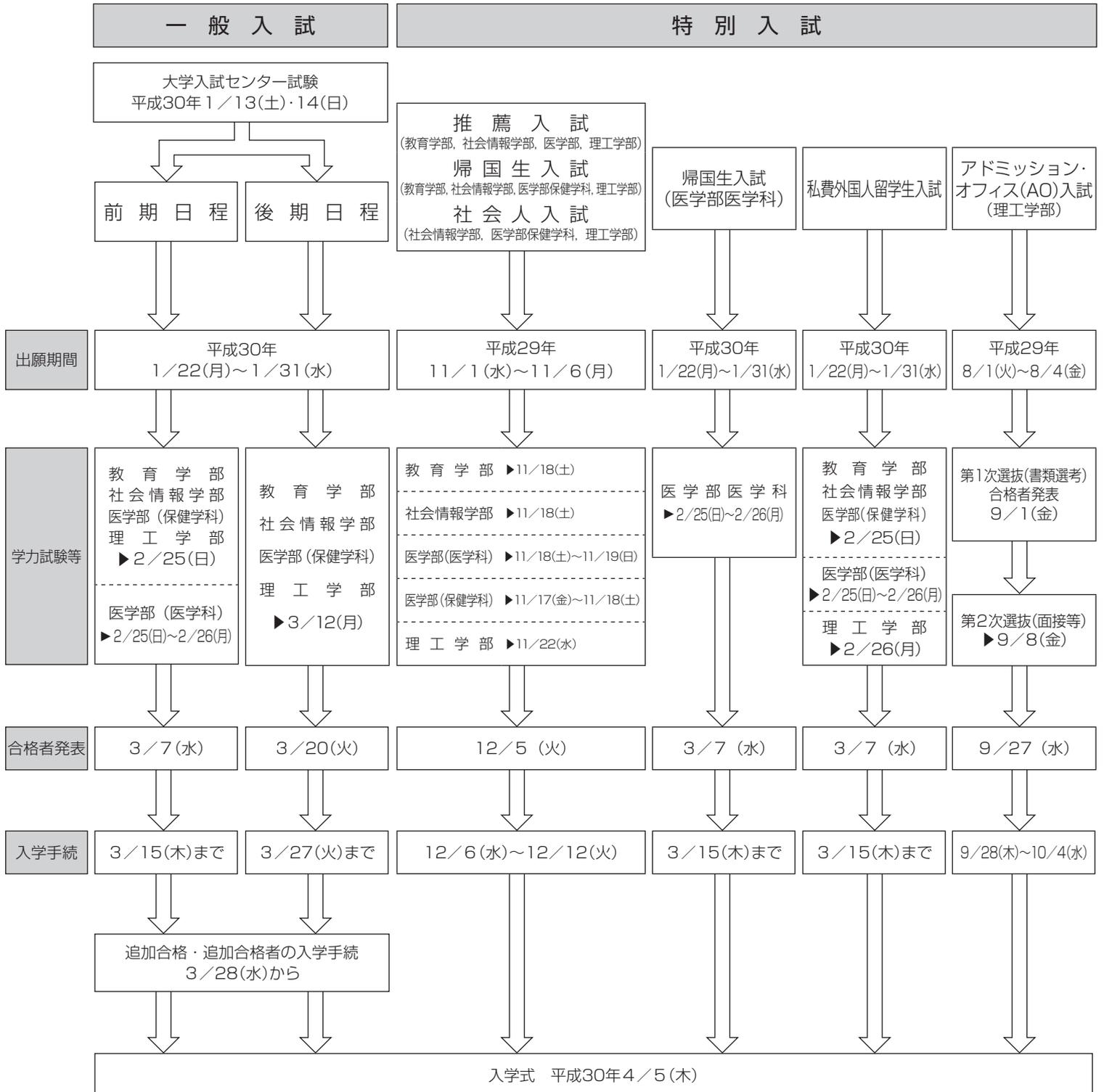


https://page.line.me/gunma_uni_ad



http://twitter.com/gunma_uni_ad

群馬大学入学者選抜日程の概要



本学では、これらの入学者選抜のほか、編入学試験を実施します。

詳細については、裏表紙「入学試験に関する問合せ先」の各学部入試担当係へ問合せください。

必ずお読みください**群馬大学の教育ポリシー****入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～****<入学者に求める能力・資質>**

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
- 2 専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
- 5 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
- 6 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～**<教育課程編成と教育方法>**

全学的な協力体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程（カリキュラム）は以下の方針で編成されています。

- 1 カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った系統的な教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度(成績)評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学修意欲を促す教育、授業時間外自己学修や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
- 2 学士課程教育においては、全学共通の教養科目、学部別科目(専門基礎科目、一部の学部で開設)、及び専門科目、加えて学部独自の教養教育科目を、互いの融合を図りながら編成する。
- 3 全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではなく、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。
- 4 専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また、専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。
- 5 専門科目においては、次の能力の養成に向けた教育を行う。

- (1) 専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力
- (2) 専門分野に関係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
- (3) 自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

＜学修成果の評価＞

シラバスに記載の達成度(成績)評価方法に基づいて行います。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜卒業認定・学位授与の条件＞

- 1 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
- 2 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

＜学修成果の目標＞

専門的学識、技能

- 1 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。

幅広い教養、学際性

- 2 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。

論理的思考力、コミュニケーション力

- 3 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。

社会人としての自覚、国際性

- 4 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。

必ずお読みください**理工学部教育ポリシー****入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～**

- 1 誰も行ったことのない新しいことに挑戦することが好きで、失敗をおそれない人
- 2 自らの能力向上を目指し、そのための労を惜しまない人
- 3 自然現象や科学技術などに興味があり、それらを通じて自然科学の原理原則を最後まで追究したい人
- 4 理工学を学ぶ上での基礎学力を有し、理学的基盤（数学、物理学、化学、生物学など）の理解を基に新理論・新技術の開発にチャレンジしたい人
- 5 理工学分野で国際的な活躍をめざす人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

世界の知的基盤を担う創造性豊かな人材を育成するため、学生と教員との緊密なつながりを基本として、次のような教育を行います。

- 1 理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育
- 2 国際的な水準を満たし、かつ各教員の特長を活かした教育
- 3 個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育む教育
- 4 国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成する教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

- 1 自然や社会の理解に関する俯瞰的・論理的な見方や考え方を修得した者
- 2 理工学に関する基礎および専門的な知識を修得した者
- 3 社会の中で専門分野の知識を活かし、未知なるものの探求、新たなものの創生や諸課題の解決に取り組める者
- 4 他者の意見を理解し、自らの意見を伝え、外国の人ともコミュニケーションができる素養をもつ者

必ずお読みください**化学・生物化学科の教育ポリシー****入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～****<人材育成の目標>**

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質の構成原理・物性の解明、新規反応の開発、新規機能材料の創製、生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等の諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

<入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも化学、生物学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)、生物(生物基礎を含む。)(あるいは同等の科目)のうち二つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～**<教育の目標>**

我が国の社会を支える研究者・技術者としての倫理観を身に付け、自然科学の基礎知識に立脚し、物質の構成原理・物性の解明、新規反応の開発、新規機能材料の創製、生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等について基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実験・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
- 3 また、社会的自立に必要なスキルの修得のための科目も提供する。

＜教育内容・方法＞

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験の各科目
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 教務システム等を利用したポートフォリオ等の記録作成を通しての、自己学習の充実

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科の定める単位を修得した者
- 2 人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
- 3 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

自然科学に加え、化学に対する総合的な知識・理論の基礎を理解し、物質の構成原理と物性の解明、新規反応の開発に基づく機能材料の創製、及び生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等に関する基礎・専門的知識と実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学、生物学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 物質(有機・無機・高分子・生体物質等)の性質、構造、反応、機能、合成等及び生物の構造・機能についての基礎的・専門的知識と実践的応用能力を修得していること。
- 3 化学技術者としての基礎技術、理工学技術者としての基礎知識を修得していること。
- 4 国際コミュニケーションスキルの基本を修得していること。
- 5 社会的自立に必要な就業力、社会生活の基礎となる教養と汎用性スキルを修得していること。

必ずお読みください**機械知能システム理工学科の教育ポリシー****入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～****<人材育成の目標>**

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる柔軟性豊かな高度専門職業人を育成

<入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 機械とその知能化に興味があり、理工学、中でも物理学、数学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)と化学(化学基礎を含む。)(あるいは同等の科目)、及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～**<教育の目標>**

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる柔軟性豊かな高度専門職業人を育成するための基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のための、実験・実習・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
- 3 以上の知識、実践力を表現するプレゼンテーション力、英語力の向上に必要な科目を提供するとともに、社会的自立に必要なスキル修得のための科目も提供する。

＜教育内容・方法＞

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実習・実験の各科目
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 教務システムの利用、ポートフォリオ(自己診断シート)や学習記録表などを活用した自己学習の充実

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーの学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ(自己診断シート)等を通して学生が確認する。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科の定める単位を修得した者
- 2 人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持っている者
- 3 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる能力を身に付け、柔軟性豊かな高度専門職業人として社会に貢献する能力を有していること。

具体的には、

- 1 幅広い教養を身に付け、科学技術が人間社会や環境に与える影響を健全に判断・評価できる能力、及び技術者倫理を修得していること。
- 2 自然科学の本質と基礎原理を十分に理解し、論理的思考により、工学的問題に応用できる能力を修得していること。
- 3 エネルギー変換のプロセスを正確に理解し、エネルギー的に最適で、しかも環境に配慮した機械の設計や開発に寄与できる知識を修得していること。
- 4 機械材料の特性・本質・限界を理解するとともに、機械の設計、製造、運用、廃棄にわたるライフサイクルを通して、最適な材料及びその加工方法の選定ができる能力を修得していること。
- 5 機械の構造や機構・運動の解析能力を身に付け、電子情報技術を融合し機械の知能化を進めることができる知識を修得していること。
- 6 機械・人類・環境の調和を基礎とした機械知能システム理工学を学修し、目的に合った機械システムを設計・創造する能力を修得していること。

- 7 自ら問題を発見し、それを解決する手法、いわゆるデザイン能力を身に付け、さらに、未知なる問題に挑戦する精神を持ち、将来の先端的技術開発に携わることができる素養を身に付けていること。
- 8 自らの研究成果や意見を具体的に表現し、発表・伝達する能力を修得していること。また、語学能力及び国際的に協調できる能力を修得していること。
- 9 問題に対して他者と議論し、協力し、協調しながらチームとして解決し、発展させてゆくチームワーク力を身に付けていること。

必ずお読みください**環境創生理工学科（環境エネルギーコース）の教育ポリシー****入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～****＜人材育成の目標＞**

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質とエネルギーの性質を理解し、それらの流れと収支を捉えた上で、環境問題やエネルギーに関する諸課題、又は自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理に関する諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも物理、化学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。))及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～**＜教育の目標＞**

我が国の社会を支える研究者・技術者として、自然科学の基礎知識に立脚し、物質・エネルギー収支に基づくプロセス設計、化学工学、及び環境理工学等を基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、本コースが定める学修成果の目標を達成するための専門教育を、カリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実験・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
- 3 自ら課題を見出し、積極的に解決へ向けて進められるスキルを修得するための科目を提供する。

＜教育内容・方法＞

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験の各科目
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習の督励
- 4 学生が自分自身で学習・教育目標の達成状況を逐次確認できるためのポートフォリオ(自己診断シート)等の活用

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーにおける学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ(自己診断シート)等を通して学生が確認する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及び本コースの定める単位を修得した者
- 2 人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持っている者
- 3 職業人、技術者、研究者としての自覚を持つ者

＜学修成果の目標＞

自然科学、化学工学に対する総合的な知識・理論の基礎を理解し、物質・エネルギー収支に基づくプロセス設計、化学工学、及び環境理工学等に関する基礎・専門的知識と実践的応用能力を修得するために、以下の五つの学習・教育目標を掲げる。

- 1 自然科学の基礎となる数学，物理学，化学，生物学などについて，その基礎を修得していること。
- 2 物質・エネルギー、化学工学、環境理工学についての基礎的・専門的知識と実践的応用能力を修得していること。
- 3 化学工学技術者・理工学技術者としての基礎知識・基礎技術を修得し、かつ自ら課題を分析し、実施計画を組み立てる能力を修得していること。
- 4 国際コミュニケーションスキルの基本を修得していること。
- 5 社会的自立に必要な就業力と汎用的スキルを修得していること。

必ずお読みください**環境創生理工学科（社会基盤・防災コース）の教育ポリシー****入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～****＜人材育成の目標＞**

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質とエネルギーの性質を理解し、それらの流れと収支を捉えた上で、環境問題やエネルギーに関する諸課題、又は自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理に関する諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも物理、化学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。))及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～**＜教育の目標＞**

我が国の社会を支える研究者・技術者としての倫理観を身に付け、自然科学の基礎知識に立脚し、自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設を計画・設計・施工・維持管理することのできる幅広い知識を持った人材を育てる教育を展開する。

＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、本コースが定める学修成果の目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
- 3 自ら課題を見出し、積極的に解決へ向けて進められるスキルを修得するための科目や、社会的自立に必要なスキルを身に付けるための科目を提供する。
- 4 日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定基準を満たす教育を展開する。

＜教育内容・方法＞

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた科目の設定
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標達成に向けた、授業外の学習の督励
- 4 学生が自分自身で学習・教育目標の達成状況を逐次確認できるためのポートフォリオ(自己診断シート)等の活用

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーにおける学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ(自己診断シート)等を通して学生が確認する。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及び本コースの定める単位を修得した者
- 2 人文科学、社会科学及び自然科学と理工学の関わり合いを理解し、土木工学の専門技術に関する知識とそれらを応用できる者
- 3 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

社会の要請する水準を満たす土木技術者としての素養を身に付けていること。具体的には、

- 1 グローバルな視野と基礎学力：人文・社会・自然科学と工学の関わり合いを理解し、工学の基礎素養を修得していること。
- 2 土木工学の専門知識と応用学力：土木工学主要分野の基礎を身に付け、様々な対象へ展開できる能力の基礎を修得していること。
- 3 自然環境・社会環境との調和及び技術者倫理：技術が自然環境・社会に与える影響や効果及び技術者倫理の基礎を修得していること。
- 4 課題の提案・解決能力：社会や技術の要請から自ら課題を見出し、解決するための思考及び行動力が身に付いていること。
- 5 コミュニケーション能力と国際性：論理的思考能力や、他者との協調性を身に付け、積極的に国内外の技術等に関心を持つ態度を身に付けていること。
- 6 課題の分析・計画立案能力：自ら課題を分析し、実施計画を組み立てる能力を修得していること。
- 7 自主的・継続的学習法の修得：自主的、継続的に学習する能力を修得していること。

必ずお読みください**電子情報理工学科（電気電子コース）の教育ポリシー****入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～****<人材育成の目標>**

個々の多様な探究心に応える基礎から応用までを網羅した体系的教育と、質の高い学修支援に基づいて、自然科学、特に数学・物理学・化学の基礎知識に立脚し、電気・電子・情報分野の理工学に関する深い造詣を身に付けるとともに、これらを基礎とした新たな学術領域や応用分野の開拓に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野と倫理観を有する、社会で広く活躍できる人材の育成

<入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、身に付けた知識・能力を社会・地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも数学、物理学を基盤とする分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)(あるいは同等の科目)のうち一つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～**<教育の目標>**

技術者として必要となる数学、物理学、化学などの自然科学のみならず、電気電子工学の基礎理論から応用技術までを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、電気電子工学に関連した幅広い基礎知識を身に付けるとともに、課題解決のための論理的思考に基づいた応用力と倫理観を有し、科学技術の発展にグローバルに貢献できる人材を育てる教育を展開する。

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に人文科学、社会科学、自然科学、及び外国語教育などの教養教育を編成し、技術者としての幅広い教養を身に付けるとともに、国際コミュニケーション能力の基礎となる科目を提供する。
- 2 電子情報理工学の基礎の理解と、専門教育への円滑な移行を目的とした専門基礎科目を初年次に提供する。
- 3 勤労観・職業観の形成により、職業人、技術者、研究者としての将来像を主体的に設計する教育科目を初年次を中心に提供する。
- 4 2年次以降に学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統

的に展開する。電気電子工学の基礎となる科目から、応用技術に関連する科目まで幅広く提供し、さらに、演習科目を充実させ、論理的な思考力と実践的な応用力を養う。また、技術者としての倫理観と社会的自立につながる就業力を養う科目を提供する。

- 5 卒業研究を実施し、論理的思考に基づく課題解決への応用力と、論理的に発表し討論する能力を養う。

＜教育内容・方法＞

- 1 シラバスに記述されたカリキュラムを構成する各授業科目の目的、内容（概要、方法、スケジュール）による授業の展開と、評価基準及び成績評価方法に基づいた評価の実施
- 2 各授業科目の学修成果の到達目標に向けた、学生の主体的・能動的な参加の督励
- 3 シラバスに記載の授業外学習情報を活用した授業外の主体的な学修機会（予習と復習）の提供

＜学修成果の評価＞

各授業科目の成績をシラバスに記載の評価方法に基づいて評価し、学則に定められた基準に照らしてS、A、B、C、Dの5段階で評定し、学修成果を評価する。さらに、各授業科目の評定を基にしてGPAを算出する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及びコースの定める単位を修得した者
- 2 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持ち、電気電子工学の発展に国内外で貢献しようとする者
- 3 主体的に課題を発見し、論理的に課題を解決する能力を持つ者

＜学修成果の目標＞

数学、物理学、化学などの自然科学の基礎知識に加え、計算機を利用するための基礎知識、並びに電子情報理工学に関する基礎及び専門知識を身に付け、論理的思考により科学、工学に関する問題に応用する能力を修得していること。

具体的には、

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 電磁気学、電気回路などの電気電子工学の基礎知識を修得した上で、電子材料、電子デバイスの知識を身に付け、素子の設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
- 3 エネルギー変換や光エレクトロニクス、計測制御技術の知識を身に付け、最適なシステムの設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
- 4 情報通信やコンピュータのハードウェア及びソフトウェア技術の知識を身に付け、情報及び回路システムの設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
- 5 社会人のみならず国際人としての教養を持ち、英文技術資料を理解し英語によるコミュニケーション基礎能力を修得していること。
- 6 社会的自立につながる就業力と技術者としての倫理観を持ち、自ら課題を発見し他者と協調しながら計画的に解決する能力を修得していること。また、多面的かつ客観的に物事を捉え、その研究成果を論理的に発表し討論する能力を修得していること。

必ずお読みください**電子情報理工学科（情報科学コース）の教育ポリシー****入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～****<人材育成の目標>**

個々の多様な探究心に応える基礎から応用までを網羅した体系的教育と、質の高い学修支援に基づいて、自然科学、特に数学・物理学・化学の基礎知識に立脚し、電気・電子・情報分野の理工学に関する深い造詣を身に付けるとともに、これらを基礎とした新たな学術領域や応用分野の開拓に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野と倫理観を有する、社会で広く活躍できる人材の育成

<入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、身に付けた知識・能力を社会・地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも数学、物理学を基盤とする分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)(あるいは同等の科目)のうち一つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～**<教育の目標>**

技術者として必要となる数学、物理学、化学などの自然科学のみならず、情報科学の基礎理論から応用技術までを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、情報科学に関連した幅広い基礎知識を身に付けるとともに、課題解決のための論理的思考に基づいた応用力と倫理観を有し、科学技術の発展にグローバルに貢献できる人材を育てる教育を展開する。

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に人文科学、社会科学、自然科学、及び外国語教育などの教養教育を編成し、技術者としての幅広い教養を身に付けるとともに、国際コミュニケーション能力の基礎となる科目を提供する。
- 2 電子情報理工学の基礎の理解と、専門教育への円滑な移行を目的とした専門基礎科目を初年次に提供する。
- 3 勤労観・職業観の形成により、職業人、技術者、研究者としての将来像を主体的に設計する教育科目を初年次を中心に提供する。

- 4 2年次以降に学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に展開する。情報科学の基礎となる科目から、応用技術に関連する科目まで幅広く提供し、さらに、演習科目を充実させ、論理的な思考力と実践的な応用力を養う。また、技術者としての倫理観と社会的自立につながる就業力を養う科目を提供する。
- 5 卒業研究を実施し、論理的思考に基づく課題解決への応用力と、論理的に発表し討論する能力を養う。

＜教育内容・方法＞

- 1 シラバスに記述されたカリキュラムを構成する各授業科目の目的、内容(概要、方法、スケジュール)による授業の展開と、評価基準及び成績評価方法に基づいた評価の実施
- 2 各授業科目の学修成果の到達目標に向けた、学生の主体的・能動的な参加の督励
- 3 シラバスに記載の授業外学習情報を活用した授業外の主体的な学修機会(予習と復習)の提供

＜学修成果の評価＞

各授業科目の成績をシラバスに記載の評価方法に基づいて評価し、学則に定められた基準に照らしてS、A、B、C、Dの5段階で評定し、学修成果を評価する。さらに、各授業科目の評定を基にしてGPAを算出する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及びコースの定める単位を修得した者
- 2 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持ち、情報科学の発展に国内外で貢献しようとする者
- 3 主体的に課題を発見し、論理的に課題を解決する能力を持つ者

＜学修成果の目標＞

数学、物理学、化学などの自然科学の基礎知識に加え、計算機を利用するための基礎知識、並びに電子情報理工学に関する基礎及び専門知識を身に付け、論理的思考により科学、工学に関する問題に応用する能力を修得していること。

具体的には、

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 計算や情報を視点とした情報科学の数学理論を身に付け、応用する能力を修得していること。
- 3 計算機の構造と原理、計算機による効率的な計算の方法、及び計算機システムの基礎知識を身に付け、それらに関する技術を開発する能力を修得していること。
- 4 計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための理論を身に付け、その技術を開発する能力を修得していること。
- 5 社会人のみならず国際人としての教養を持ち、英文技術資料を理解し英語によるコミュニケーション基礎能力を修得していること。
- 6 社会的自立につながる就業力と技術者としての倫理観を持ち、自ら課題を発見し他者と協調しながら計画的に解決する能力を修得していること。また、多面的かつ客観的に物事を捉え、その研究成果を論理的に発表し、討論する能力を修得していること。

アドミッション・オフィス（AO）入試

<専門学科・総合学科特別入試>

1 趣旨

本選抜は、高等学校等の職業に関する学科及び総合学科の出身者を対象に、理工学に対する高い意欲、資質を有する学生を選抜することを目的として、詳細な書類審査と丁寧な面接等を組み合わせ合わせて総合的に判定する、アドミッション・オフィス（AO）入試です。

理工学部の教育ポリシー（5ページ）及び各学科（コース）の教育ポリシー（6～18ページ）を基に、各学科では詳細な「求める学生像」を定めて、選抜を行います（22～25ページ **5 選抜方法** 参照）。

2 募集人員

学 部	学 科	募集人員
理工学部	化学・生物化学科	2名
	機械知能システム理工学科	4名
	環境創生理工学科	2名
	電子情報理工学科	5名

※本入試では、合格者数が募集人員に満たない場合があります。また、入学手続者数が募集人員に満たない場合でも追加合格は行いません。

※入学手続者が募集人員に満たない場合は、原則として推薦入試の募集人員に、この満たない人数を加えます。

3 出願資格及び出願要件

<出願資格>

高等学校若しくは中等教育学校の、職業に関する学科又は総合学科を卒業した者、又は平成30年3月31日までに卒業見込みの者

<出願要件>

◎ 化学・生物化学科／環境創生理工学科／電子情報理工学科

次の(1)(2)を全て満たす者

- (1) 出身学校において職業に関する教科・科目【注】を20単位以上修得又は修得見込みの者
- (2) 合格した場合は、入学することを確約できる者

【注】職業に関する教科・科目とは、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉の各専門教科に属する科目に、「産業社会と人間」（これに準ずる学校設定教科・科目を含む。）を加えた教科・科目をいう。

◎ 機械知能システム理工学科

次の(1)(2)を全て満たす者

- (1) 出身学校において工業又は情報に関する教科・科目を20単位以上修得又は修得見込みの者
- (2) 合格した場合は、入学することを確約できる者

4 出願手続

- (1) 出願書類提出先

〒376-8515 桐生市天神町一丁目5番1号

群馬大学理工学部学務係 電話：0277-30-1040

(2) 出願方法

出願書類は一括して本学所定の封筒に入れ、必ず**書留速達**で郵送してください。

普通郵便等で郵送した場合、事故があっても本学ではその責任は負いません。

(3) 出願期間

平成29年8月1日(火)～8月4日(金) 必着とします。

この期間内に必着するよう郵便事情を十分考慮して早めに送付してください。期間内に到着しない場合は受け付けません。

なお、特別な事情がある場合については、7月28日(金)17時までに「(1) 出願書類提出先」へ電話で連絡してください。

(4) 出願書類

書 類	摘 要
入 学 願 書	様式1 所要事項を記入してください。
照合票・受験票	様式4・5 所要事項を記入し、照合票に写真(上半身・正面・無帽 タテ4cm×ヨコ3cm 1枚:3か月以内に撮影したもの。)を貼付してください。
検 定 料	<p>様式2 17,000円 次のいずれかの方法により支払ってください。</p> <p>1. 金融機関(ゆうちょ銀行を除く)からの支払い</p> <p>(1) 本募集要項に添付してある振込用紙(様式2)により、上記金額を必ず金融機関の窓口から振り込み、振込金受付証明書(大学提出用)を受領してください。なお、振込手数料は振込人の負担となりますので留意してください。</p> <p>(2) 「振込金受付証明書(大学提出用)」を貼付台紙(様式3)の所定の欄に貼り付けてください。</p> <p>(3) 「振込金受取書」は本人の控えとして、大切に保管してください。</p> <p>(4) <u>振込取扱期間 平成29年7月24日(月)～平成29年8月4日(金)15時まで</u></p> <p>(5) 金融機関出納印のないもの、金額を訂正したもの及び鉛筆書きのものは無効になります。また、ATM(現金自動預払機)、携帯電話、パソコン等からは、振り込まないでください。</p> <p>2. コンビニエンスストアでの支払い(パソコンやスマートフォン等のある環境で御利用ください。)</p> <p>(1) 32ページ「コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料支払方法」を参照の上、支払ってください。なお、支払手数料は支払人の負担となりますので、留意してください。</p> <p>(2) 支払後、レジにて受け取った「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、貼付台紙(様式3)の所定の欄に貼り付けてください。</p> <p>(3) <u>支払期間 平成29年7月24日(月)～平成29年8月4日(金)15時まで</u>(「Webサイトでの申込み」は、支払期間終了30分前まで)</p> <p>3. クレジットカードでの支払い(パソコンやスマートフォン等、プリンタのある環境で御利用ください。)</p> <p>(1) 32ページ「コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料支払方法」を参照の上、支払ってください。なお、支払手数料は支払人の負担となりますので、留意してください。</p> <p>(2) 支払後、「入学検定料・選考料 取扱明細書」を印刷し、「収納証明書」部分を切り取り、貼付台紙(様式3)の所定の欄に貼り付けてください。</p> <p>(3) <u>支払期間 平成29年7月24日(月)～平成29年8月4日(金)15時まで</u></p> <p>※ 既納の検定料は原則として返還しません。ただし、検定料を振り込み後、本学に出願しなかった場合又は書類の不備等により受理されなかった場合、あるいは重複振り込み等所定の金額より多く振り込んだ場合は、下記手続により返還します。</p> <p>返還に当たっては便せん等を用い、次のア～エを明記した検定料返還申出書を作成して群馬大学財務部経理課収入係へ郵送してください。</p>

検 定 料	<p>群馬大学アドミッション・オフィス（AO）入試検定料返還申出書</p> <p>ア 返還申出の理由 イ 氏名（フリガナ） ウ 郵便番号、現住所 エ 連絡電話番号</p> <p>返還申出書送付先 〒 371 - 8510 群馬県前橋市荒牧町 4 丁目 2 番地 群馬大学財務部経理課収入係 電話：027-220-7062</p> <p>また、第1次選抜（書類選考）で不合格となった場合は、「国立大学法人群馬大学授業料その他の費用に関する規程」により13,000円を返還します（第1次選抜不合格者には、検定料払戻請求書を郵送します。）。</p> <p>検定料返還に関する問合せ先 群馬大学財務部経理課収入係 電話：027-220-7062</p> <p>返還手続を行う際に、「振込金受取書」又は「入学検定料・選考料 取扱明細書」が必要になります。</p> <p>返還される金額は、振込手数料を差し引いた金額となります。</p> <p>※ 東日本大震災及び風水害等の災害に罹災した志願者については、特別措置として検定料の全額を免除します。</p> <p>検定料の免除の対象者</p> <p>1. 東日本大震災に係る特別措置</p> <p>(1) 東日本大震災における災害救助法が適用されている地域で罹災した志願者で、以下のいずれかに該当する者</p> <p>① 学資負担者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊又は流失した者</p> <p>② 学資負担者が死亡又は行方不明の者</p> <p>(2) 学資負担者の居住地が、福島第一原子力発電所で発生した事故により、警戒区域、計画的避難区域、帰還困難区域、居住制限区域及び避難指示解除準備区域に指定された者</p> <p>2. 風水害等の災害に係る特別措置</p> <p>(1) 出願期限の日から前1年以内に発生した風水害等の災害において、災害救助法が適用されている地域で罹災した志願者で、以下のいずれかに該当する者</p> <p>① 学資負担者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊又は流出した者</p> <p>② 学資負担者が死亡又は行方不明の者</p> <p>(2) 本学が指定する風水害等の災害における「災害救助法適用地域」については、本学ホームページ（入試案内：関連情報）を御確認ください。</p> <p>上記に該当される方は、当該「検定料免除申請書」を本学ホームページ（入試案内：関連情報）からダウンロードし、関係書類を添え出願書類に同封して申請してください。書類の提出に関する問合せ等は、平日8時30分から17時の間に学務部学生受入課【電話 027-220-7149】まで連絡してください。</p> <p>URL：(http://www.gunma-u.ac.jp/)</p>
宛 名 票	様式6 ※印欄以外は全て記入してください。
調 査 書	<p>所定の様式により、出身学校長が作成し、厳封したもの</p> <p>※1 出身学校の事情（廃校及び被災等を含む。）により、出身学校長の調査書が得られない場合は、卒業証明書、成績通信簿及びその他入学志願者が提出できる書類を、調査書に代えて提出してください。</p> <p>※2 本人が被災等により※1の書類も整えられない場合は、出身学校を所管する教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこの内容を証明できる書類を提出してください。</p>
志 望 理 由 書	様式7 5 選抜方法 （22～25ページ）を良く読んで作成してください。
自 己 推 薦 書	様式8 5 選抜方法 （22～25ページ）を良く読んで作成してください。
受 験 票 等 送 付 用 封 筒	362円分の切手を貼り、送付先を記入してください。

- 注1. 出願書類に虚偽の記載が発見された場合は、入学許可を取り消すことがあります。
2. 受理された出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。
3. 受験に関する質問等は、理工学部学務係へ問い合わせてください。
4. 受験票は8月11日（金）までに到着するよう送付しますが、それまでに到着しない場合は理工学部学務係へ問い合わせてください。

5 選抜方法

(1) 化学・生物化学科

<p>求める 学生像</p>	<p>化学・生物化学分野に興味を持って、大学でより高度な知識・技術を習得することに強い意欲を有し、将来、国際的に活躍する技術者・研究者になることを目指す人</p>	
<p>選抜方法</p>	<p>選抜は、第1次選抜（出願時提出書類による審査）及び第2次選抜（第1次選抜合格者に対して行う試験等）により行い、大学入試センター試験は課しません。</p> <p>最終合格者の判定は、第1次選抜及び第2次選抜の結果を総合して行います。ただし、第2次選抜の結果が著しく不良の場合は、前述にかかわらず不合格となることがあります。</p>	
	<p>第1次 選 抜</p>	<p>出願時に提出する下記書類により、化学・生物化学科での学修に対する適性・意欲を評価します。</p> <p>(1) 調査書</p> <p>(2) 志望理由書（様式7） 下記①②について記述してください。（各400字程度、志願者自筆。）</p> <p>① 化学・生物化学科への進学を希望する理由</p> <p>② 大学卒業後の進路・将来の希望</p> <p>(3) 自己推薦書（様式8） これまでの活動や体験に基づいて、化学・生物化学科で勉強する適性と意欲を備えていることをアピールしてください。（800字程度、志願者自筆。）</p> <p>また、記載内容について客観的に証明できる資料【注】がある場合は、添付資料一覧に明記の上、3点以内（全体でA4用紙3枚以内）で添付してください。（添付した資料は返却できませんので、原本を手元に残したい場合は、コピーを提出してください。）</p> <p>【注】証明資料の例：公的職業資格の資格証、検定試験の成績証、高大連携プログラムへの参加記録、理工学に関わるコンテスト・研究発表会等への参加・入賞記録、理工学に関わるクラブ活動記録など。</p>
	<p>第2次 選 抜</p>	<p>第1次選抜の合格者に対して面接（個人面接、25分程度、面接委員複数、理工学教育を受けるための基礎能力に関する口頭試問を含みます。）を実施し、基礎学力・勉学意欲・目的意識・表現力・コミュニケーション力・論理的思考力などを総合的に評価します。なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは合否には影響しません。</p>

(2) 機械知能システム理工学科

求める 学生像	大学での理工学の専門に通ずる基礎学力を有し、さらにこれらを基に新理論・新技術の開発にチャレンジしたい人	
選抜方法	<p>選抜は、第1次選抜（出願時提出書類による審査）及び第2次選抜（第1次選抜合格者に対して行う試験等）により行い、大学入試センター試験は課しません。</p> <p>最終合格者の判定は、第1次選抜及び第2次選抜の結果を総合して行います。ただし、第2次選抜の試験等のいずれかに著しく不良のものがあつた場合は、前述にかかわらず不合格となることがあります。</p>	
	第1次 選 抜	<p>出願時に提出する下記書類により、機械知能システム理工学科での学修に対する適性・意欲を評価します。</p> <p>(1) 調査書</p> <p>(2) 志望理由書（様式7） 下記①②について記述してください。（各400字程度、志願者自筆。）</p> <p>① 機械知能システム理工学科への進学を希望する理由</p> <p>② 大学卒業後の進路・将来の希望</p> <p>(3) 自己推薦書（様式8） これまでの活動や体験に基づいて、機械知能システム理工学科で勉強する適性と意欲を備えていることをアピールしてください。（800字程度、志願者自筆。）</p> <p>また、記載内容について客観的に証明できる資料【注】がある場合は、添付資料一覧に明記の上、3点以内（全体でA4用紙3枚以内）で添付してください。（添付した資料は返却できませんので、原本を手元に残したい場合は、コピーを提出してください。）</p> <p>【注】証明資料の例：公的職業資格の資格証、検定試験の成績証、高大連携プログラムへの参加記録、理工学に関わるコンテスト・研究発表会等への参加・入賞記録、理工学に関わるクラブ活動記録など。</p>
	第2次 選 抜	<p>第1次選抜の合格者に対して、下記の試験等を実施し、基礎学力・勉学意欲・目的意識・表現力・コミュニケーション力・論理的思考力などを総合的に評価します。</p> <p>(1) 面接（個人面接、15～20分、面接委員複数、理工学教育を受けるための基礎能力に関する口頭試問を含みます。） なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは可否には影響しません。</p> <p>(2) 小論文 課題は試験当日に提示します。</p>

(3) 環境創生理工学科

<p>求める 学生像</p>	<p>① 基礎となる化学工学を応用発展することで、持続的に発展する社会を実現するための新しい技術を開発していきたいと考えている好奇心旺盛な人</p> <p>② 人文・社会・自然科学・理工学の基礎を身に付け、地域の防災安全性の向上及び自然環境との調和を図りながら、より良い社会基盤を創生する意欲・希望に満ちた人</p> <p>③ 自学自習の精神を忘れずに新しい学問の修得に励み、協調性・積極性をもって課題に取り組み、問題解決に向けて努力を惜しまず、考え、行動できる人</p>	
<p>選抜方法</p>	<p>選抜は、第1次選抜（出願時提出書類による審査）及び第2次選抜（第1次選抜合格者に対して行う試験等）により行い、大学入試センター試験は課しません。</p> <p>最終合格者の判定は、第1次選抜及び第2次選抜の結果を総合して行います。ただし、第2次選抜の結果が著しく不良の場合は、前述にかかわらず不合格となることがあります。</p>	
	<p>第1次 選 抜</p>	<p>出願時に提出する下記書類により、環境創生理工学科での学修に対する適性・意欲を評価します。</p> <p>(1) 調査書</p> <p>(2) 志望理由書（様式7） 下記①②について記述してください。（各400字程度、志願者自筆。）</p> <p>① 環境創生理工学科への進学を希望する理由</p> <p>② 大学卒業後の進路・将来の希望</p> <p>(3) 自己推薦書（様式8） これまでの活動や体験に基づいて、環境創生理工学科で勉強する適性と意欲を備えていることをアピールしてください。（800字程度、志願者自筆。）</p> <p>また、記載内容について客観的に証明できる資料【注】がある場合は、添付資料一覧に明記の上、3点以内（全体でA4用紙3枚以内）で添付してください。（添付した資料は返却できませんので、原本を手元に残したい場合は、コピーを提出してください。）</p> <p>【注】証明資料の例：公的職業資格の資格証、検定試験の成績証、高大連携プログラムへの参加記録、理工学に関わるコンテスト・研究発表会等への参加・入賞記録、理工学に関わるクラブ活動記録など。</p>
	<p>第2次 選 抜</p>	<p>第1次選抜の合格者に対して面接（個人面接、15～30分程度、面接委員複数、理工学教育を受けるための基礎能力に関する口頭試問を含みます。）を実施し、基礎学力・勉学意欲・目的意識・表現力・コミュニケーション力・論理的思考力などを総合的に評価します。なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは合否には影響しません。</p>

(4) 電子情報理工学科

<p>求める 学生像</p>	<p>① エレクトロニクスと情報科学に関する最先端の知識や技術を身に付け、それを自分の強みとして従来にはない全く新しい技術や知識を生み出せる優秀な人 ② 安心安全で持続可能なユビキタス情報化社会の基盤を作り、世界に向けて発信していきたいと希望に燃える人 ③ 主体性があり、好奇心が旺盛で常に問題意識を持ち解決に向け自ら考え、行動を起こす意欲と能力を持つ人</p>
<p>選抜方法</p>	<p>選抜は、第1次選抜（出願時提出書類による審査）及び第2次選抜（第1次選抜合格者に対して行う試験等）により行い、大学入試センター試験は課しません。 最終合格者の判定は、第1次選抜及び第2次選抜の結果を総合して行います。ただし、第2次選抜の試験等のいずれかに著しく不良のものがあつた場合は、前述にかかわらず不合格となることがあります。</p> <p>出願時に提出する下記書類により、電子情報理工学科での学修に対する適性・意欲を評価します。</p> <p>(1) 調査書 (2) 志望理由書（様式7） 下記①②について記述してください。（各400字程度、志願者自筆。） ① 電子情報理工学科への進学を希望する理由 ② 大学卒業後の進路・将来の希望 (3) 自己推薦書（様式8） これまでの活動や体験に基づいて、電子情報理工学科で勉強する適性と意欲を備えていることをアピールしてください。（800字程度、志願者自筆。） また、記載内容について客観的に証明できる資料【注】がある場合は、添付資料一覧に明記の上、3点以内（全体でA4用紙3枚以内）で添付してください。（添付した資料は返却できませんので、原本を手元に残したい場合は、コピーを提出してください。） 【注】証明資料の例：公的職業資格の資格証、検定試験の成績証、高大連携プログラムへの参加記録、理工学に関わるコンテスト・研究発表会等への参加・入賞記録、理工学に関わるクラブ活動記録など。</p> <p>第1次選抜</p> <p>第1次選抜の合格者に対して、下記の試験等を実施し、基礎学力・勉学意欲・目的意識・表現力・コミュニケーション力・論理的思考力などを総合的に評価します。</p> <p>(1) 面接（個人面接、約15分、面接委員複数、理工学教育を受けるための基礎能力に関する口頭試問を含みます。） なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは合否には影響しません。 (2) プレゼンテーション 電子情報技術関連のこれまでの優れた活動や電子情報技術利用の新しいアイデア等の自己PRを、10分以内で行ってください。 プレゼンテーション用資料（片面印刷。図表を含めてA4用紙2枚以内で、資料が2枚の場合は1部ずつホチキスで留めること。）を5部作成し、試験当日に持参してください。 プレゼンテーションに使用できる物は、上記の持参したプレゼンテーション用資料のみとします。ただし、補足説明が必要な場合に限り、本学で用意するホワイトボードに手書きで板書することを認めます。</p> <p>第2次選抜</p>

6 第2次選抜試験の日時及び試験場

日時

月日	時間		受 付	諸 注 意
	8:00	9:00		
9月8日(金)		8:30		<p>面接 小論文 プレゼンテーション</p> <p>試験時間割等については、受験票送付時に通知します。</p>

(注) 1 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意等があるので試験開始30分前までには定められた集合場所に集合してください。
2 遅刻した者には、試験開始後30分までは受験を認めません。ただし、試験時間は延長しません。

試験場

試験場	所在地	試験場までの交通案内
群馬大学 理工学部	桐生市天神町一丁目5番1号	31 ページ「試験場までの交通案内」参照

7 障害等のある入学志願者との事前相談について

本学では障害等のある学生への就学支援を行っております。

障害等があって、受験上及び修学上の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、あらかじめ本学と相談してください。

(1) 相談の時期

平成29年7月28日(金)までとしますが、なるべく早い時期に相談してください。

(2) 相談の方法

本学所定の相談書(本学ホームページ参照 <http://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001/g2117>)に医師の診断書等必要書類を添付して提出してください。

必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る方との面談等を行います。

(3) 相談書送付先

群馬大学学務部学生受入課入学試験係

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2 電話:027-220-7150

8 合格者発表

(1) 第1次選抜合格者発表

平成29年9月1日(金)

第1次選抜合格者には、合格通知書を郵送します。併せて第1次選抜合格者の受験番号を群馬大学のホームページ(入試案内)に同日の10時以降掲載します。大学構内での提示等はありません。群馬大学ホームページ:[<http://www.gunma-u.ac.jp/>]

第1次選抜不合格者には、不合格通知書及び検定料払戻請求書を郵送します。

なお、合否についての電話による問合せには応じません。

(2) 最終合格者発表

平成29年9月27日(水)

合格者にのみ合格通知書を郵送します。併せて合格者の受験番号を群馬大学のホームページ

(入試案内)に同日の10時以降掲載します。大学構内での掲示等はありません。

群馬大学ホームページ：[<http://www.gunma-u.ac.jp/>]

なお、合否についての電話による問合せには応じません。

※アドミッション・オフィス（AO）入試で合格した者は、他の国公立大学を受験しても、その大学の合格者となりません。

ただし、特別の事情があり、平成30年2月16日（金）までに「入学辞退願」を本学学長に提出し、その許可が得られた場合はこの限りではありません。

9 第2次選抜試験受験心得

- (1) 第1次選抜合格者は、「アドミッション・オフィス（AO）入試受験票」を必ず持参し、試験場に入構の際、提示してください。なお、合格後、入学手続の際にも必要となりますので大切に保管してください。
- (2) 試験中は、監督者の指示に従ってください。
- (3) 不正行為を行った者は、失格とします。
- (4) 試験時間中に日常的な生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打ち合わせなど、航空機・救急車・自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、携帯電話や時計等の短時間の鳴動、周囲の建物のチャイム音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。
- (5) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。
- (6) その他の諸注意は、受験票裏面の「受験心得」を確認してください。

10 入学手続等

合格者は、「合格通知書」とともに同封する案内を参照し、次のとおり入学手続を行ってください。

- (1) 入学手続期間 平成29年9月28日（木）から10月4日（水）郵送必着
- (2) 入学手続に必要なもの
 - ①入学料 282,000 円
 - (注ア. 入学時に入学料の改定が行われた場合は、改定金額を適用します。
 - イ. 入学料の納入方法等は、別途連絡します。
 - ウ. 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
 - ②入学手続案内で指示するもの
- (3) 入学後に必要な納付金
 - ①授業料 前期分 267,900 円 年額 535,800 円
 - (注ア. 授業料に、入学時および在学中に改定が行われた場合は、改定金額を適用します。
 - イ. 授業料の納入方法等は、別途連絡します。
 - ウ. 授業料の納入については、希望により入学料の納入の際に、前期分又は前期分・後期分を合わせて納入することができます。
 - エ. 授業料を納入した入学手続完了者が、3月31日（土）までに入学を辞退した場合は、納入した者の申し出により、所定の手続きの上、納入した授業料相当額を返還します。

② その他の諸経費

入学料、授業料の他に、次の諸経費があります。(納入日等は後日指示されます。なお、金額は予定であり、入学時及び在学中に改定が行われる場合があります。)

68,560円〔内訳：後援会及び工業会費50,000円／学生教育研究災害傷害保険料3,300円／学研災付帯賠償責任保険料1,360円／荒牧クラブ・サークル協議会費4,000円／学友会費9,900円〕

※その他テキスト代として、年間44,000円程度必要になります。

(4) 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予

① 特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の全額若しくは半額を免除する制度があります。また、所定の納期までに入学料又は授業料の納入が困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。

② 東日本大震災で罹災し学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料を免除する制度があります。

③ 入試結果や学業成績などが特に優秀な学生(卓越した学生)に対して、各学部等からの推薦に基づき、授業料の免除をする制度があります。

申請を希望する者は、群馬大学ホームページ(<http://www.gunma-u.ac.jp/>)の「受験生のみなさまへ」を御覧ください。

問合せ先 学務部学生支援課学生生活係 電話：027-220-7141

(5) 奨学金

経済的理由により就学に困難がある、学業・人物ともに優れた学生に対し、修学を援助するために日本学生支援機構等による奨学金の貸与・給付制度があります。

希望する者は、群馬大学ホームページ(<http://www.gunma-u.ac.jp/>)の「受験生のみなさまへ」を御覧ください。

問合せ先 学務部学生支援課学生生活係 電話：027-220-7142

11 一般入試等への出願について

本入試において不合格となった者は、本学の他の入試又は他大学の入試に出願することができます。

また、大学入試センター試験を受けた者で国立大学の一般入試に出願しようとする者は、各大学の所定の方法により、「前期日程」から1つ、「後期日程」から1つの、合計2つの大学に出願することができます。(公立大学については、協会ホームページを参照。 <http://www.kodaikyo.org/>)

なお、本学の他の入試へ再度出願する場合でも、一般志願者と全く同様の出願手続(検定料は17,000円、理工学部総合理工学科(フレックス制)は、10,000円)が必要です。

12 入学準備

入学手続者には、入学までの更なる学力向上のため、各学科が指定する課題を課し、それに対する報告書を提出していただきます(詳細は、入学手続完了後に通知します)。

また、基礎学力の確認のため、平成30年1月に実施される大学入試センター試験の受験を強く

推奨しています。大学入試センター試験を受験した者は、数学・理科・外国語の「自己採点結果」を下記宛先へ1月31日（水）までに提出してください。（大学入試センター試験の出願時に、成績開示を希望した場合は、大学入試センターから送付される「成績通知書」（コピーでも可）も、入学後に提出してください。）

入学後、この成績を参考に「グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラム」（下記参照）を希望する学生を選抜します。また、入学後の入門科目の受講免除の判定にも用います。

なお、この成績はアドミッション・オフィス（AO）入試の可否には関係ありません。

「自己採点結果」及び「成績通知書」送付先

〒376-8515 桐生市天神町一丁目5番1号 群馬大学理工学部学務係

※封筒には「大学入試センター試験自己採点結果在中」又は「大学入試センター試験成績通知書在中」と朱書してください。

グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラム

群馬大学では、本学の学生が「自国及び他国の文化・歴史・伝統を理解し、外国語によるコミュニケーション能力を持ち、国内外において主体的に活動できる人」となるよう、グローバルフロンティアリーダーの育成に力を入れています。その一環として、グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムを設置し、教育学部と社会情報学部が連携した「教育・社情グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」、及び医学部と理工学部が連携した「医理工グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」の2コースにより、日本語能力・国際理解を含む幅広い教養・外国語コミュニケーション能力の習得を中心とした教育を行うとともに、海外留学の経験を通して広い視野を持つ学生を育てます。

なお、「医理工グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」は、文部科学省の委託事業「理数学生応援プロジェクト」として平成24年度まで実施していた「工学系フロンティアリーダーコース（FLC）」を発展させたものとなります。

(1) 教育学部

学校教育の担い手として、国際的な視点から日本の教育をとらえ、広い視野を持って活躍する人材の養成を目的としています。各学年8名程度を選抜します。

(2) 社会情報学部

社会情報学部の学際性を活かし、世界に学び、それを地域に展開する能力だけでなく、地域の中に学び、それをグローバルに展開する能力を持つ人材の養成を目的とした「グローバル教育」を行います。各学年10名程度を選抜します。

(3) 医学部医学科

医師、医学研究者又は医療行政担当者として、国際的視野を持ち、広く国際社会に貢献し得る人材の養成を目的としています。各学年4名程度を選抜します。

(4) 医学部保健学科

保健医療の担い手として、グローバル化した保健医療の諸課題に対応できる国際的視野を持つ人材の養成を目的としています。各学年4名程度を選抜します。

(5) 理工学部

理工学分野において、新しい領域を開拓する創造的プロジェクトのリーダーとして、諸外国の技術者・研究者と専門分野に関して意思疎通を図りながら、協力して活躍できる能力を身につけた人材の養成を目的としています。各学年16名程度を選抜します。

13 入学願書等の記入上の注意

- (1) 黒のボールペン又は万年筆を使用してください。
- (2) 必要事項は正確に楷書で記入し、該当事項はもれなく○で囲んでください。
なお、※印欄は記入しないでください。

14 平成30年度入試情報開示について

群馬大学では、アドミッション・オフィス（AO）入試の入試情報について、次のとおり開示し、提供します。

(1) 開示する基本的情報

志願者数
受験者数
合格者数
入学者数
入学辞退者数

報道機関を通じて提供するとともに、平成30年5月1日（火）以降に、本学のホームページにて掲載します。

- ・面接、小論文、プレゼンテーションの「評価のポイント」…平成30年7月頃、本学のホームページにて掲載します。

(2) 閲覧による開示情報

- ・入学に関する規程・規則等
- ・入試実施体制

開示期間は、平成30年4月9日（月）から5月31日（木）までとします。（土曜日、日曜日及び休日を除く。）

15 入学志願者の個人情報保護について

群馬大学では、提出された出願書類により取得した志願者の個人情報及び入学試験の実施により取得した受験者の個人情報について、「国立大学法人群馬大学保有個人情報管理規程」等に基づいて取扱い、次の目的以外には利用しません。

○入学者選抜に関する業務（統計処理などの付随する業務を含む。）

○入学手続完了者にあつては、入学者データとして入学後の就学指導業務、学生支援業務及び授業料徴収業務

なお、本学の上記業務にあたり、一部の業務を個人情報の適切な取扱いに関する契約を終結した上で、外部の事業者へ委託することがあります。

また、国立大学の一般入試における合格決定業務を円滑に行うため、本学の一般入試志願者の学部、試験区分、合格状況、本学の受験番号及び大学入試センター試験の受験番号に限って、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。

◎試験場までの交通案内

JR両毛線桐生駅下車、北方へ2.5km

東武桐生線新桐生駅下車、北方へ4.1km

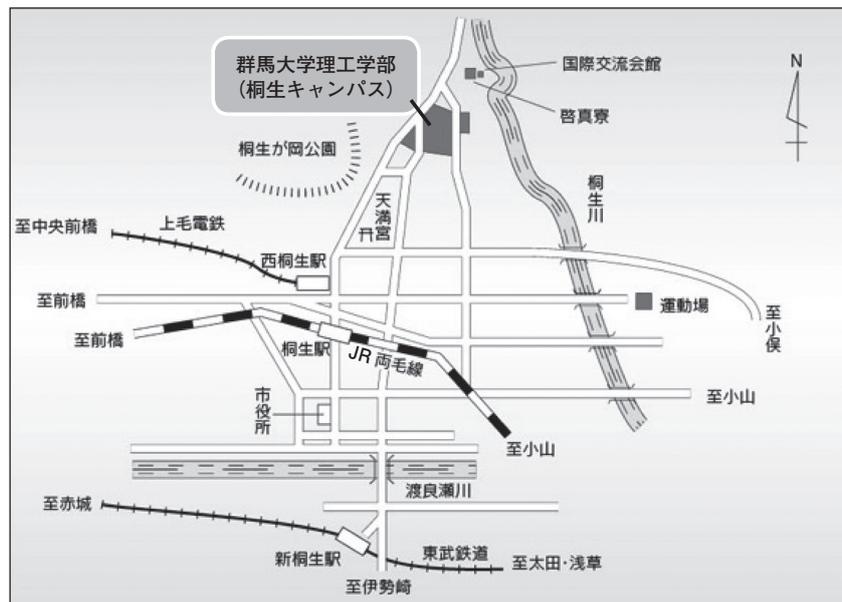
バス乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間
J R 両毛線桐生駅北口 おりひめバス「桐生駅北口」	桐生女子高前行 上菱団地行 梅田ふるさとセンター前行	「群馬大学桐生正門前」	約7分
JR 両毛線桐生駅北口から徒歩10分 おりひめバス「本町五丁目」			約4分
東武桐生線新桐生駅 おりひめバス「新桐生駅」	桐生女子高前行	「群馬大学桐生正門前」	約15分

※試験場への自動車・オートバイ等の乗り入れは、禁止します。

※公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください

※理工学部は、平成25年4月に工学部を改組して設置された学部ですが、施設の名称が「工学部」となっている場合がありますので、御留意ください。

桐生キャンパス周辺図



コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料支払方法

検定料はコンビニエンスストア「セブン-イレブン」「サークルK」「サンクス」「ローソン」「ミニストップ」「ファミリーマート」、クレジットカードで24時間いつでも払い込みが可能です。事務手数料が別途かかります。詳しくはWebサイトを御確認ください。

1 Webで事前申込み

画面の指示に従って必要事項を入力し、お支払いに必要な番号を取得。

https://e-shiharai.net/

携帯サイトの未成年者アクセス制限サービスを解除して御利用ください。

※入力内容を間違えた場合は、始めからもう一度やり直し、新たな番号を取得してお支払いください。
申込み完了後に通知する支払期限内に代金を支払わなければ、入力情報は自動的にキャンセルされます。

クレジットカードでお支払いの場合
画面の指示に従って必要事項を入力し、そのままカード決済手続きを行ってください。
※カード決済完了後の修正・取消はできませんので、申し込みを確認する前に内容をよく御確認ください。

本学HPからもアクセスできます!




2 お支払い

各店舗へ

そのままカード決済手续へ

コンビニエンスストアでお支払いの場合

- 検定料はATMでは振り込みできません。必ずレジでお支払いください。
- 店頭端末機の画面デザイン等は、予告なく変更される場合があります。



【払込票番号(13ケタ)】

●レジにて「インターネット支払い」と店員に伝え、印刷した【払込票】を渡すか、【払込票番号】を伝えてお支払いください。
マルチコピー機は使用しません。



【オンライン決済番号(11ケタ)】

Kstationへ
各種支払い
11ケタ等の番号をお持ちの方
オンライン決済番号を入力してお支払い
【オンライン決済番号】を入力



【お客様番号(11ケタ)】【確認番号(4ケタ)】

Loppiへ
各種サービスメニュー
各種代金・インターネット受付(紫のボタン)
各種代金お支払い
マルチペイメントサービス
【お客様番号】【確認番号】を入力



【お客様番号(11ケタ)】【確認番号(4ケタ)】

Famiポートへ
代金支払い
各種代金お支払い
番号入力画面に進む
【お客様番号】【確認番号】を入力



※お支払いされるカードの名義人は、受験者本人でなくても構いません。ただし、「基本情報入力」画面では、必ず受験者本人の情報を入力してください。

Web申込みの際に、支払方法で「クレジットカード」を選択
カード情報を入力
全入力内容が表示されますので、正しければ「確定」を押す

お支払い後、必ず「入学検定料・選考料 取扱明細書」を受け取ってください。

店頭端末機より出力される「申込券」(受付票)を持って、30分以内にレジでお支払いください。

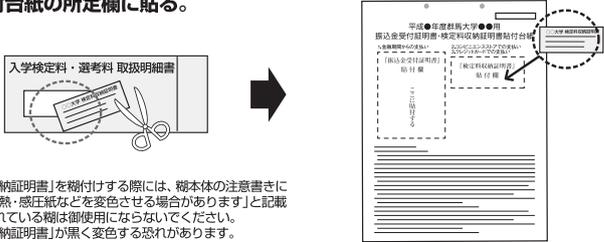
お支払い後、必ず「入学検定料・選考料 取扱明細書」を受け取ってください。

お支払い完了です。
E-支払いサイトの申込内容照会(URL:https://e-shiharai.net/)にアクセスして、「入学検定料・選考料 取扱明細書」を印刷してください。

3 出願手続

【コンビニエンスストアでお支払いの場合】

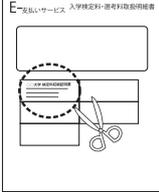
「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、貼付台紙の所定欄に貼る。



※「収納証明書」を糊付けする際には、糊本体の注意書きに「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載されている糊は御使用にならないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。

【クレジットカードでお支払いの場合】

支払い完了後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された【受付番号】と【生年月日】を入力して「入学検定料・選考料 取扱明細書」を印刷。「収納証明書」部分を切り取り、貼付台紙の所定欄に貼る。※左図参照



(注意)
携帯電話・スマートフォンでお申込みされた方は、プリンタのある環境で申込内容照会を行ってください。

- 支払期間については、募集要項を御確認の上、受付期間に間に合うように十分に余裕をもってお支払いください。
- コンビニエンスストアでのお支払いの場合、「Webサイトでの申込み」は、支払期間終了30分前までとなります。なお、店頭端末機の使用及びクレジットカードでのお支払いの場合の支払期間は、各募集要項でお示すとおりです。
- E-支払いサイトの「申込内容照会」から収納証明書が印刷できるのは、クレジットカードでお支払いされた場合に限りです。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問い合わせください。

- 32 -

入 試 情 報

■ 群馬大学ホームページ <http://www.gunma-u.ac.jp/>

「入試案内」において、以下の情報等をお知らせしています。

- 学生募集要項
- 進学相談会・オープンキャンパス等各種イベント案内
- 入試実施状況、入試統計資料
- 入学時の経費（入学科・授業料等）・奨学金情報
- 過去の入試問題
- 資料請求方法

入学試験に関する問合せ先

受付時間 8時30分から12時、13時から17時15分（土・日曜日、祝休日、年末年始を除く）

本学は主体的に学ぶ姿勢を持つ学生を求めています。問合せは、やむを得ない場合を除き、志願者本人が行ってください。

■ 本要項及び入学試験全般に関するお問合せ

学務部学生受入課

電話 027-220-7150、7151、7152 / FAX 027-220-7155 〒371-8510 前橋市荒牧町4丁目2番地

■ 理工学部入試担当係

○学務係

電話 0277-30-1037、1040 〒376-8515 桐生市天神町1丁目5番1号

LINEとTwitterから入試情報をリアルタイムでお届けします。



https://page.line.me/gunma_uni_ad



http://twitter.com/gunma_uni_ad